

No.67

佐賀県立博物館・美術館報

佐賀市城内1丁目15番23号 TEL 0952(24) 3947

宝亀五年銘椅寺鐘

復元模型 全高四十二センチ口径二十九センチ

昭和四十六年五月頃、千葉県成田市八代高津团地の造成中、「宝亀五年(七七四)」在銘の小鐘が発見された。ブルドーザーで、部破壊されているが、池の間の第一区に、次の陽鋸銘がある。

「以寶亀五年(二月十二日)肥前國佐嘉」（肥前國佐嘉） 椅寺之鐘

これは、有銘鐘の中で第四番目に古いもので、奈良時代末期に近い鐘である。

椅子寺の位置は現在不明であるが、佐賀郡大和町大願寺庵寺がそれであろう、という説もある。

この出土地から北方一kmの地に超林寺がある。ここに肥前千葉氏の祖平貞胤の百カ日供養碑

（観応二年四月日）

があることから、椅子寺もこれと深い関係があると思われる。

この鐘は、二段四列に乳があり、撞座は三角形小弁十葉を配し、竜頭と同一方向にあって新式の位置を有している。

鐘は池の間について、平安期型の先駆的様式を持っている。当館では、昭和五十八年度文化庁及び国立歴史民俗博物館の指導助言を得て復元のレプリカを作成したのがこれである。



目 次

○宝亀五年銘椅寺鐘	表紙
○肥前の梵鐘考(1)	2~8 P
○展覧会ご案内	8 P

肥前 の 梵 鐘 考 (1)

日本の鐘は仏具だけでなく、時報、非常時の半鐘、戦陣での陣鐘、航海時のバストルにも使用された。

古くは文様・慶長の役で秀吉によって徵用され、幕末では大砲鋳造の用材として、第2次大戦時では軍需用品として召集された。

肥前では中世期に肥前鐘が鋳造され、江戸期からは谷口・樹(植木)の両式によって梵鐘、半鐘が鋳造されてきたが、その実体は未だ解明されていない。

本稿では、初めてに佐賀県下に關係ある梵鐘について触れてみたい。

1. 昭和17年時の供出記録

第2次大戦での県下の梵鐘の供出は、昭和17年に行われている。その折の杵島郡内での事情は武雄史(石井良一著)に詳細に述べられている(別表1)。昭和17年12月1日、杵島郡内の梵鐘51口に対して武雄町字西浦の広場に關係者一同が集って告別式を行っている。供出された梵鐘51口の製作年代の内訳をみると、無銘10、江戸期23、明治以降18で、無銘の大部分を江戸期とみて、一郡内の梵鐘の製作年代は江戸期60%、明治以降40%となる。

なお、神埼郡内での梵鐘供出については、東脊振村西往寺に梵鐘供出の写真が所蔵されている。その裏書によると、昭和17年12月10日に郡内31口の供出供養が行われている。

2. 江戸期の梵鐘

肥前佐賀では、明暦から宝永(1655～1710)にかけて樹(植木)と名乗る鋳物師が城内の寺町で、又、谷口を名乗る鋳物師が寛文年間(1661～1672)から昭和時代ま

で長瀬町で、梵鐘・半鐘の鋳造に当っている。

しかし、これら江戸期以降鋳造の梵鐘は、昭和17年の供出で全部供出されたが、幸い武雄市広福禪寺に無銘鐘1口が復員鐘として現存している。

又、長崎県下で、佐賀鋳造の樹系1口・谷口系4口の存在を確認したこと(別表2)、その作例を知ることが出来た。半鐘は、供出を免れたので、現在樹系約40口、谷口系約130口を数えることが出来る。

江戸時代、県下にどれ位の梵鐘が存在していたかは、殆んど知ることが出来ない。

一地域については、幸い多久邑の地誌「丹邱邑誌」(弘化4年春、深江順房撰)の社寺の項に、梵鐘に触れた記述があるので、その中から関係分を拾ってみると紀年銘が明確なのは、万治元年(1658)から天保2年(1831)まで16口があり、その中樹系2・谷口系7を数えることが出来る(別表3)。

多久邑は、現在の多久市に牛津・江北・大町・北方の山麓部分の一部を加えた領域である。「丹邱邑誌」が誌された弘化年間(1844～1847)には、邑内には少なくともこの中破鐘と、質流れした鐘を除くと、紀年銘のある分で14口が存在していたことになる。

深江順房はこれより以前、佐賀領内を見聞した記録として「肥前国佐賀領見聞誌 多久長門家中深江三太夫記 天保四年四月十五日」がある。この中から社寺の鐘楼と梵鐘について記載している部分を拾うと、46か所の寺社に鐘楼を見ている(別表4)。その中梵鐘について注目すべきものをあげてみると聖萬寿寺(大和町水上)の項に

鐘仏殿中ニ繫レリ亘二尺二寸長四尺餘今ノ鐘ノ形ト異ナリ龍頭ノ傍ニ穴アリ銘ノ内大日本國鎮西筑後州三

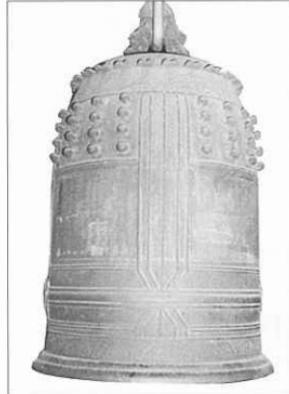
諸庄酒見村風浪舟権現洪鐘銘日トアリ

また 宗竜寺(佐賀市水ヶ江)の項には

大鐘ハ肥後ノ物ニテ竜造寺隆信川上宮へ寄進、後ニ此



飯盛山西明寺鐘



大遷山洞禪寺鐘

寺ノ鐘トナレリ 長肩二丈三寸ワタリ肩一丈半 銘奉
施入肥後ノ國大野別府繁根本八幡宮鐘也 正平廿三年
五月日 大願主道智勸進吉行然今肥前國領主河上宮奉
寄進之護持檀那嶋生琳 千文天祐五年丙申八月吉祥日
此鐘廻廊ニ繫レリ 法用ノ鐘ハ鐘樓ニアリ

とある。真手山健福寺（佐賀郡大和町）については、
茶堂ノ簷下大鐘カ・ル古物ニテ銘不知建久七年ノ四字
見ユ亘り一尺六寸長三尺ホド上細ク下大ニシテ形今ノ
鐘ト大ニ異ナリ

また 芙蓉山医王寺（東松浦郡相知町）の項には
大鐘本堂ノ内ニ繫レリ朝鮮陣ノ節取替カヘレリ西海
路肥前州彼杵庄内父貞志村宇都宮永和二年丙辰八月吉
トアリ

恵日寺（唐津市鏡）の梵鐘については

大鐘ノ銘大平六年丙寅九月河清郡口北寺鎰鑄一鈴トア
リ大平ハ北宋ノ年号■無双ノ古物ニテ形大ニ異ナリ

とある。深江三太夫の見聞誌は、領内のすべての社寺に
わたっているわけではない。ここに記載されている鐘楼や
梵鐘は、彼がなんとなく目に触れたものであろう。彼が
見聞したこの社寺は、領内的一部ではあるが、天保年間、
儒者がごとらえた領内の代表的社寺ということは出来る。

3. 肥前の古鐘（その1）

佐賀県立博物館に保管する「肥前古鐘銘屏風」（鍋島報
效会蔵）は、次の9鐘の拓本を六曲一隻の屏風に仕立て
たものである。

六曲の扇順(上下)	題 簽 名(筆書にて貼付)	拓本枚数
1 扇	佐嘉郡南里村正定寺鐘銘	3
2 扇 (上段)	佐嘉郡水上山鐘銘	2
	佐嘉郡真手山健福寺鐘銘	2
3 扇	佐嘉郡大堂社鐘銘	7
4 扇	佐嘉郡本庄社鐘銘	3
5 扇 (上段)	神崎郡櫛田社鐘銘	4
	佐嘉郡与賀社鐘銘	2
6 扇 (上段)	三根郡千栗八幡宮鐘銘	2
	佐嘉郡宗竜寺鐘銘	2

この9鐘について、原銘、追銘等の年代、場所等を追つてみると

*1. 佐嘉郡南里村正定寺鐘

①(原銘)肥後國淨光寺 延慶三年^{庚午}十一月二日 治成之
(荒尾市蘿満字松木園)

②(追銘)三宝寺 天文十五年^{丙午}六月吉日 敬白
(淨光寺東北約200mの所)

③(追々銘)肥前国正定寺 天文二十二年^{壬午}六月吉日
(佐賀郡川副町南里)

2. 佐嘉郡水上山鐘銘〔朝鮮鐘〕

①(原銘)筑後州風浪將權現 応永廿一年^{甲午}十一月
(大川市酒見風浪神社)

②(追銘)水上山興聖萬壽禪寺 慶長第六辛丑南呂彼岸日
(佐賀郡大和町水上)

この追銘は屏風にはないが、後述の「社寺古鐘之銘」
に出てくる。

*3. 佐嘉郡真手山健福寺鐘銘

真手山 建久七年^{丙午}十一月十九日^{甲午}
(1196)
(佐賀郡大和町川上大願寺)

4. 佐嘉郡大堂社鐘銘

①(原銘)筑後州山門郡瀬高下庄大竹山二尊禪寺
永享七年^{丙辰}三月廿三日
(1435)
(福岡県山門郡瀬高町大竹)

②(追銘)筑後州三池北郷今福原村若宮八幡大菩薩
永正十五年^{戊寅}夏孟夏十三日
(1518)

③(追々銘)肥前州河副庄大堂村六所宮
天文七年^{丙辰}正月二十八日
(1538)
(佐賀郡諸富町大堂)

5. 佐嘉郡本庄社鐘銘〔朝鮮鐘〕

肥前国小城郡雲海山岩藏寺 天正九年九月十日
(1581)
(小城郡小城町岩藏)

6. 神崎郡櫛田社鐘銘

天正三伯^子夾鍾吉辰
(1575)
(神崎郡神崎町)

7. 佐嘉郡与賀社鐘銘

肥前国与賀御座鎮守宮
建長三年^{庚午}八月八日^{丙申}治鉄之
(1251)
(佐賀市与賀町)

8. 三根郡千栗八幡宮鐘銘

宝泉 天文十二年^{癸卯}二月四日
(1543)
(三養基郡北茂安町千栗)

*9. 佐嘉郡宗竜寺鐘銘

①(原銘)肥後國大野別府繁根本八幡宮
正平廿四年五月日
(1369)
(熊本県玉名市繁根本)

②(追銘)肥前国鎮守河上宮 文祿五年^{丙寅}八月吉祥日
(1596)
(佐賀郡大和町川上)

※は明治22年現存の分。〔 〕は筆者記入、()は現
住所及び西暦年号筆者記入。

佐賀県立図書館の「鍋島文庫」に「社寺古鐘之銘」と
いう筆書きの冊子がある。

この冊子は、明治22年修史局へ提出した鍋島家の控え
で、前記「肥前古鐘銘屏風」の拓本を筆書きし、野紙の
上欄に現存の有無について朱書きをしている(※の部分)。
記載の順序は拓本屏風の貼付順と異なっているが、
佐嘉郡本庄社鐘銘の最後に

以上九鐘天保中百武兼寛閑散之折各所巡覽摺写有之
居英二付膳写スル者也

と記している。その後に、次の3件を追記している。

*10. 神崎郡杠山野波大明神鐘銘

①(原銘)杠山野波大明神 文明四年^{壬辰}二月吉日
(1472)

②(追銘) 豊後州安岐郷海卯山実際禪寺 明徳^庚九月重陽日
(1390)
(大分県東国東都安岐町)

(2) 佐嘉郡水上山鐘銘追加

前記「2. 佐嘉郡水上山鐘銘」の追加銘で、紀年銘は「慶長第六辛丑南嶺彼岸日」である。
(1601)

(3) 佐嘉郡水上山一鐘之銘

①(原銘) 肥州水上山萬壽寺鐘銘序 弘安二年乙卯孟夏下旬日
(1279)

②(追銘) 肥州水上山萬壽寺 明応六年五月二十六日
(1497)

前記「肥前古鐘銘屏風」にある9鐘27枚の拓本は、天保年間(1830~1843)、百武兼寛が手拓したもので、これを相良某(頭注による)が謄本を作り、さらに、明治22年吉田某が「社寺古鐘之銘」として修史局へ提出したものである。両者の関係から天保年間には、屏風に貼付している9鐘(和鐘7、朝鮮鐘2)と、百武兼寛が見落した2鐘、計11口が数えられる。これが明治22年には①健福寺、②正定寺、③宗竟寺、④野波大明神の4口だけが現存していたことになる。

なお、手拓者百武兼寛は、日本の洋画の先駆者百武兼行(1842~1884)の祖父で、百武家系譜に

百武平左衛門 手明鐘頭 実百武善左衛門兼道四男
初辰之助 作右衛門 文化七年依勤功御加米拾石拝

領 法名良雄軒大普義徹居士 嘉永元年戊申九月三
日卒 行年七拾七歲

とあって、この手拓は兼寛が60代に行ったものである。

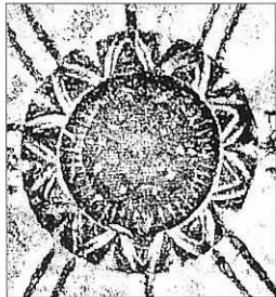
また、鍋島報效会に所蔵されている「大正七月八月御

■肥前鐘一覧

No.	寺院名	鐘銘の紀年(西暦)	鋸物師	身 _{cm}	笠 _{cm}	竜頭 _{cm} (一部欠)	計 _{cm}	口径 _{cm}	厚 _m	撞座高 _{cm}
97	島根県 宝照院鐘	(原銘) 嘉元2年(1304)		60.0	3.0	10.9	73.9	48.2	4.5	④14.6
1164	肥前 正安寺鐘	建武4年(1337)	沙弥円道							
151	長崎県 多久頭魂神社鐘	康永3年(1344)	覚円	78.5	4.0	19.5	102.0	60.5	5.5	18.0
163	福岡県 櫛田神社鐘	(原銘) 觀応3年(1352)		72.0	4.4	17.5	93.9	53.6	4.5	18.8
176	滋賀県 大通寺鐘	(原銘) 貞治2年(1363)	藤原正光	75.5	4.4	17.5	97.4	57.0	6.4	19.1
198	佐賀県 医王寺鐘	永和2年(1376)	有智田祖久	62.0	3.4	17.0	82.4	49.7	5.8	14.4
405	福岡県 英彦山神社鐘			91.2	6.0	25.6	122.8	72.2	8.5	23.4

*番号・寸数は坪井良平氏の「慶長以前の梵鐘要目一覧表」による。

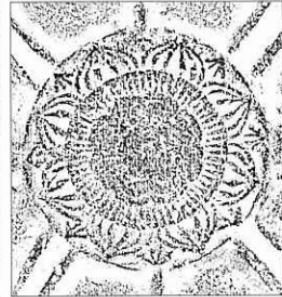
No.は同表の年表番号。



宝照院鐘 撞座 径 7.8



多久頭魂神社鐘 撞座 径 8.4



櫛田神社鐘 撞座 径 9.0

道具帳全」の「御屏風」の項に

一、鎌錐物押絵 半雙 百武安太郎献上ノ内

とあり、さらには別項に「智照院様御筆一幅右ハ明治七年百武安太郎ヨリ献上之内」ということから、この屏風も同時に鍋島家に献上したものと思われる。

坪井良平氏は昭和54年8月23日~24日、佐賀県立博物館に来館され、この屏風を実見された結果を「歴史考古学No.4」(歴史考古学研究会、昭和55年3月刊)に又刊別の「歴史考古学の研究」(ビジネス教育出版社)に「肥前古鐘銘屏風について」と題して発表された。

4. 肥前の古鐘 (その2) —— 肥前鐘 ——

昭和6年、高田十郎氏が「對馬の古金石文(上)」(考古学雑誌第21巻第11号 昭和6年刊)に「豆酸觀音堂鐘(多久頭魂神社拝所の鐘)」を紹介した。

これによると、「この鐘は竜頭の竜が方柱を呑へ、三つの玉を品の字なりに含んだ円体が蓮台に乗り、火焔を繞らして座っている。駒の爪は相当に出ている」など、これまでの梵鐘と違った特性を指摘している。銘の一文に「康永三年甲申七月二十五日鋤増之」、「松浦山下庄覓円小工季央」とある。

その後の調査で、乳の中央部に小さい突起を持ち、更に駒の爪は二段になっているなどが明らかになった。

この特色を持つ鐘は、滋賀県長浜の大通寺(貞治2年銘)、福岡市の櫛田神社(観応3年銘)にもあることが

ら、これ等3口の鐘は、上松浦の山下庄で鋳造されたものとして、松尾楨作氏は「肥前鐘」という名称を与えた。

その後、「太宰管内志」に記載されていた東松浦郡湊村相賀の法幢寺の永和2年(1376)銘の鐘が、昭和28年相知町医王寺にあることがわかった。この鐘は、坪井氏の予測通り肥前鐘であった。早速、松尾氏は昭和29年、「佐賀県文化財調査報告書第3編」に「相知町黒岩医王寺肥前鐘」として発表した。

その後、島根県松江市宝照院の鐘(松尾氏は前記論文に、この鐘も肥前鐘ではないか、と推論し調査を依頼中である)やその外2口(正安寺鐘、英彦山神社鐘)が肥前鐘であることが確認された。

坪井氏はこの肥前鐘について、前表の肥前鐘一覧の7口をあげている。このうち正安寺鐘が現存していないので、現在は6口である。

(イ) 宝照院鐘 島根県松江市外中原町

現存中の肥前鐘で一番古い紀年銘をもつ。

島根県松江市外中原町阿羅波比神社末社、愛宕神社別当宝照院(雲井泰倪住職)につるされていた鐘で、現在、島根県立博物館に寄託されている。銘文によると、

①(原銘)肥前国杵田郡北郷小田村内禪定寺

嘉元式^甲貞久九年七月
(1304)
(杵島郡江北町小田)

②(追銘)清江山妙樂院寺 文明十一歳次己亥七月吉日
(1479)
(杵島郡白石町大戸)

岩下正忠氏の推論によると(九州史学8号1958年「肥前鐘に就いて」)、

豊公文様の役の折、陣鐘として雲州富田城主堀尾吉晴の手に渡り、戦後吉晴は其隣雲州に持歸りて此を現在の宝照院に寄進せしものと思われる。

としている。施入者の大壇那「源知」は松浦党の一人で、正安から暦応年間(1299~1341)の人物と見られる。

この鐘は、竜頭の上部が欠損している。上帶、中央帶は無文で、下帯に偏向唐草文を配している。撞座は、竜頭の長軸線上と直角をなす線上にあって、中房に陰刻で10個の蓮子を打ち、その周りに蕊があり、外周には先

端の尖った三角形の蓮弁10葉を配している。

他の肥前鐘と異なる点は、撞座が古式を示していること、乳の頭部が棒状をなしていること、撞座の外周に文様(蓮弁)が10葉で簡素であること、等を指摘出来る。これ等は、肥前鐘の初期的なものとして、注目すべきである。

(ロ) 多久頭魂神社鐘 長崎県下県郡嚴原町豆酸

銘によると、寛弘5年(1008)8月28日鋳造、仁平3年(1153)10月3日に改銘し、更に、康永3年(1344)7月25日、肥前山上松浦山下庄で改銘したものである。大工は覚円、小工は季央である。大工の本貫が明記されているのは、この鐘だけである。撞座は、宝照院と同系であるが、三角形の蓮弁が8葉となり、4重弁(8稜線からなる)のうち外側2弁は、途中から切られている。鋳造地の山下庄は、唐津線山本駅近くではないか、と言われていたが、松岡史氏は唐津市山下町を比定している(未虚國 1982年5月刊 六興出版)。

(ハ) 柳田神社鐘 福岡県福岡市社家町

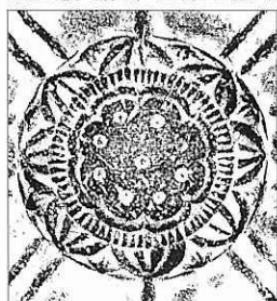
①(原銘)觀応三年歲次十一月十日

(1352)

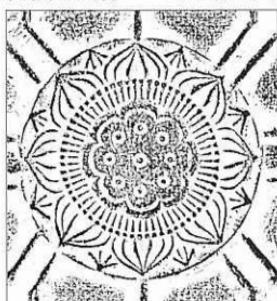
②(後銘)肥前国博多冷泉津柳田宮 正天正五年十一月吉日

(1577)

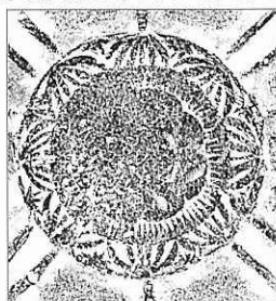
原銘を削除して、天正5年の後銘を入れている。岩下氏は、原銘を「五山文学全集第二巻東海一滝集銘」にある「柳田宮鐘銘並序」より引用して、原紀年銘を「暦応三年四月二十七日」と思考される、としている。しかし、



大通寺鐘 撞座 径 9.6



医王寺鐘 撞座 径 8.7



英彦山神社鐘 撞座 径 10.8

坪井氏は、「觀応三年歲次壬辰十一月十日」がおぼろ気ながら読み取られるとして、この年号を原銘としている。

事実、よく見れば、觀応三年（1352）は最後の行で、一部削除を免れていることが確認出来る。

なお、後銘の寄進者「肥後國北浦郡東郷甲庄領家住人綾部玄蕃允原理昌」は、肥前賀父郡（三根郡）綾部庄の綾部氏と関係があるらしいので、おそらく、原寄進者の寺社は、肥前にあったのであろう、と松尾氏は言っている。

撞座は、前の2鐘と異なり、中房の外側に約を持つ蕊を取り巻き、4稜線を持つ蓮弁と間弁がそれを取り巻いている。

（二）大通寺鐘 滋賀県長浜市

（銘）若狭国遠敷郡富田郷内多太寺
貞治二年六月二十一日
(1363)
(福井県小浜市多田)

多太寺は現称多田寺で、どのような過程で福井県まで運ばれ、又、その後、大通寺に納められたかは定かでない。

撞座は、中房8葉木爪に9顆の蓮子を植え、その周りに蕊があって、4稜線を持つ蓮弁8葉が取り巻いている。

（四）医王寺鐘 東松浦郡相知町大字黒岩字宇土183

「太宰管内志」（伊藤常足編 文化元年～天保12）の法幢寺の項に「松浦郡相賀村法幢寺鐘銘」として

諸行無常 是生滅法 生滅滅已 痴滅為樂 大旦那
駿河守藤原朝臣通景駿造 西海路肥州彼杵庄内父賀
志村宇都宮貴賤男女大小助縁不可勝数 永和二季辰
八月吉日 作者有智田祖久とあり 此寺ノ事いまだ
考へず、[◎]宇都宮とあるは神社にてその鐘なるか
父賀志村といふも今の「村名帳」などには見えず
である。

この鐘は、坪井氏をはじめ、梵鐘に関心ある人がその行方を探していた鐘である。しかし、前記、深江三太夫

の「肥前国佐賀領見聞誌」には、既に芙蓉山医王寺にあることを紹介しているが、これまで関係者は、すべてこの記録を見落していたことになる。それが昭和28年、相知町医王寺に現存していることが再確認されたのである。医王寺は永徳3年（1383）創建、妙融を開山とする曹洞宗の古刹である。

この鐘は銘文からすると、はじめ永和2年（1376）彼杵庄内父賀志村宇都宮に納められ、その後、法幢寺に移り、最後に医王寺に納められたことになる。宇都宮は、松岡氏の研究により長崎県佐世保市（旧東彼杵郡村）昭和33年8月市に編入）の宮村神社（別名宇都宮）であることがわかった。

寺伝によると、

太閽の朝鮮陣の時、陣鐘として供出され、法幢寺の管理する医王山東光寺にあった鐘が取替えられて、医王寺に帰って来た

と言われる。取替えられて法幢寺に移り伝えられた鐘は、歎應3年銘で、この度の戦争に供出された、と言われる。

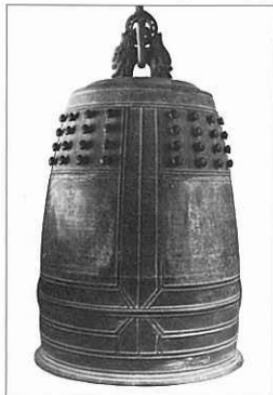
この鐘は、現存する肥前鐘で最も新しい紀年銘を持つ。南北朝時代を通じて、永和2年から康暦2年までが最も多く鋳造された時期であるが、この鐘は、撞座や紐から見て最も完備されたもので、肥前鐘として完成された時期のもとのと言える。

（五）英彦山神社鐘 福岡県田川郡添田町英彦山

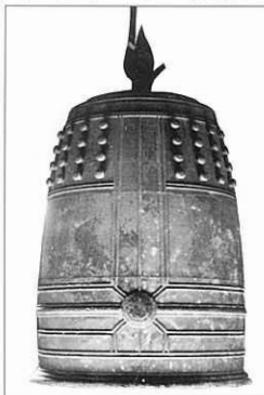
肥前鐘として最も大きい鐘である。昭和35年9月、松岡氏によって肥前鐘として確認されたものである。原銘は抹消されて、後銘を施している。文禄3年（1594）毛利久八郎の寄進によるものである。

竜頭の形式が一部省略化されていることや、乳の扁平化などからすれば、医王寺鐘よりいくらか退化したものと見るべきで、製作年代も医王寺の後に来るものと思われる。

なお、これまでの古鐘についての銘文は割愛したが、いずれ一括資料として紹介したい。（学芸課長 尾形善郎）



医王寺鐘



英彦山神社鐘



大通寺鐘 竜頭部分



医王寺鐘 乳部分

別表1 柵島郡内供出梵鐘一覧 (昭和17年)

村名	寺社名	銘	村名	寺社名	銘
武雄	広福寺	無銘	北方村	梅林寺	皇紀2600年紀念
〃	西福寺	元禄六年西3月15日 鎌物師 谷口安左衛門貯兼清	〃	永源寺	万治3庚子正月
〃	円応寺	寛文4年	〃	勝満寺	明治41年
〃	正法寺	弘化3年	〃	永林寺	(多久より奉納のこと明らかなるも鉢託むこと能わず)
〃	明宗寺	大正15年	橋下村	光明寺	天明3年
〃	円楽寺	聖徳太子1300年聖忌奉讃	〃	勇猛寺	天保8年
須古	妻山神社	玉泉坊 寛永20癸未	〃	常行寺	無銘
		太守藤原勝茂	〃	歡喜寺	大正8年
		領主鍋島因幡守藤原俊清	津秀	超光寺	天明5年
		年号の記載なし	六角	東江寺	昭和9年
〃	法泉寺	國立藤原光茂朝臣	〃	妙高寺	無銘
		領主鍋島阿波守藤原茂俊朝臣	〃	今泉正隆寺	元禄癸未16年
		安永6丁酉5月19日	白石	稻佐大師堂	享保16歳
〃	陽興寺	元禄7年	〃	福泉寺	宝永2乙酉臘月吉辰
〃	正行寺	無銘	錦江	弥福寺	昭和10年
武内村	赤穂山円正院	明治22年3月	〃	弥富寺	昭和10年
若木村	秀岩寺	寛政4年壬子	福富	大弘寺	大正11年3月
〃	嚴教寺	無銘	竜王村	光福寺	治工佐賀谷口安左衛門兼品
中通村	犬走西教寺	大正8年7月	大町	西福寺	宝永元年
〃	三間坂東光寺	明和4年丁亥	江北	泰松寺	無銘
東川登村	徳円寺	明治36年	〃	正榮寺	大正13年9月
〃	淨泰院	大正3年	〃	正昭寺	文化10年3月
橘村	東漸寺	昭和12年4月 当寺13世繪蓋	〃	禪定寺	正徳3年癸巳
〃	崇専寺	明治33年	〃	東照寺	元禄6年
〃	興隆寺	明治26年	北有明村	海藏寺	天保壬辰3年8月
朝日村	川上円照寺	昭和3年	南有明村	医王寺	享和3癸亥2月第7代
北方村	八幡神社	無銘	〃	永昌寺	文化13年

別表2 佐賀鉄造現存梵鐘一覧 (59. 12. 1現在確認分)

地名	寺名	鐘銘の紀年(西暦)	治工銘	法量	
				全高cm	口径cm
長崎県北高来郡板盛町	飯盛山西明寺	元禄後期(1700年代)	無銘(植木右京進)	106.2	62.0
〃 長崎市寺町	海雲山皓台寺	元禄15年(1702)	谷口安左衛門兼清	150.0	84.7
〃 北松浦郡町町	遠海山潮音院蓮花寺	正徳4年(1714)	谷口安左衛門	100.0	60.8
〃 〃 大島村神浦	法隆山真教寺	享保9年(1724)	谷口安左衛門清次	97.0	58.5
〃 〃 世知原町	大遷山洞禅寺	安永9年(1780)	谷口吉三郎尉兼次	115.5	72.3

別表3 多久邑関係梵鐘一覧 丹邱邑誌 (弘化4年)

No	鐘銘の紀年(西暦)	村名	寺社名	治工銘	その他の
1	万治元年 (1658)	桐野村	桐野山妙覚寺		「治工銘等略之」
2	〃 4年 (1661)	郭内	若宮八幡	治工 樹善兵衛政徳	
3	延宝3年 (1675)	藤河内村	大応山円通寺	治工 谷口惣右衛門 藤原長久	
4	元禄6年 (1693)	上山口村	山口太神宮	治工 樹右兵衛	
5	宝永元年 (1704)	山口村	金湯山竜沢寺	治工 谷口吉三郎兼宅	
6	〃 3年 (1706)	女山村	七郎權現	治工 谷口安左衛門	「鐘長2尺6寸5分 下ノ亘2尺」
7	享保8年 (1723)	〃	慈雲山正善寺	治工 肥前州佐嘉住 谷口安左衛門清次	「下ノ亘1尺6寸」
8	元文2年 (1737)	志久村	杉岡山永源寺	治工 谷口安左衛門 清次	

9	寛保2年(1742)	多久町	福田山顯護寺		治工名なし 「多久町大火ノトキ突破ル」
10	宝暦元年(1751)	郭内	光明山専称寺		「無銘」 「宝暦元年9月朔日ヨリ時鐘ヲ鳴ラス ベキ命アリテ……小鐘ヲ鋸改メル」 「長2尺3寸 下ノ亘2尺1寸」
11	〃2年(1752)	下多久村	高野大明神		治工名なし 「口径2尺1寸 量600助 明暦4年 ノ鐘ハ破壊」
12	明和8年(1771)	宮裾村	紫雲山永林寺		治工名なし
13	安永5年(1776)	長尾村	見性山福聚寺		治工名なし 「宝暦5年毀」
14	天明4年(1784)	北方村	北方八幡宮		治工名なし
15	享和元年(1801)	納所村	両子山権現	鋸工 佐嘉 谷口清右衛門藤原兼次	
16	天保2年(1831)	桐野村	桐野山妙覚寺	治工 谷口清左衛門 広忠	前記「万治元年ノ梵鐘ヲ改鋸」

別表4 「肥前国佐賀領見聞誌」にみる鐘楼所在一覧 (天保4年)

寺院名	住所	寺院名	住所
背振山東門寺多門坊	背振山久保山村(脊振村久保山)	光明山専称寺	多久邑多久小路(多久市東の原)
河上大明神	河上村大河(大和町川上)	清水山見滝寺宝地院	小城郡清水(小城町清水)
河上神通寺寒相院	"	護国松尾山光勝寺	小城郡松尾村(小城町松尾)
春日山高城護国寺	春日村(大和町春日)	堤雄大明神	杵島郡佐留志村堤尾(江北町佐留志)
聖萬壽禪寺	水上村水上(大和町水上)	杉岳山大聖寺	杵島郡杉岳村(北方町)
金立権現	金立村金山ノ頂(佐賀市金立町)	西光峯寺大智院	武雄邑宮野村(武雄市宮野)
本庄大明神	城下本庄町(佐賀市本庄町)	福泉寺	杵島郡白石田野上村(白石町田野上)
与賀大明神	城下与賀町(佐賀市与賀町)	稻佐大明神	杵島郡白石近田村(白石町近田)
牛島天満宮	城下牛嶋(佐賀市巨勢町牛島)	※稻佐山大平寺	"
六所大明神	大堂村(諸富町大堂)	丹生大明神	塙田町野辺田村(塙田町野辺田)
金剛山宗竜寺	城東片田江小路(佐賀市水ヶ江)	宗像天神	諫早邑宗方村(長崎県諫早郡宗方村)
端石山高寺	城下八幡小路(佐賀市八幡小路)	坤松山天祐寺	" 城跡
宝樹山徳善院(徳善櫻現)	城下西徳善村(佐賀市高橋)	瑞松山妙音寺	唐津領馬場村
太陽山玉林寺	朽井村(大和町久池井)	瑞鳳山近松寺	唐津城下西寺町
金宝山親長寺(金毘羅社)	金立村(佐賀市金立町)	後林山雄香寺	平戸城下
医王山正定寺	南里村(川副町南里)	奥國山正宗寺	" 宮浦町
真手山健福寺	真手村(大和町)	新北大明神	佐嘉郡三重村(佐賀郡諸富町)
天山下宮	小城郡本山村(小城町本山)	七郎社	多久邑女山村(多久市西多久町)
天山大明神	小城郡岩蔵村(小城町岩蔵)	(大町)八幡宮	杵島郡大町(杵島郡大町町)
三間明山興國円通寺	小城郡小城町(小城町)	祇園社	小城郡小城町(小城町)
高野大明神	多久邑下多久村(多久市南多久町)	童造寺八幡宮	佐嘉城下八幡小路(佐賀市八幡小路)
鶴岡八幡宮	多久邑上多久村(多久市東多久町)	※芙蓉山医王寺(初琉璃光山)	唐津領松浦郡岩村(東松浦郡相知町)
桐野山妙覚寺	多久邑桐野山(多久市南多久町)	※曹源山恵日寺	唐津領鏡村(唐津市鏡)

*は、鐘楼の記載はないが、前期梵鐘の記録がある。

※展覧会ご案内

佐賀県立博物館では昭和60年2月2日(土)から3月10日(日)まで「肥前の中世美術展」を開催いたします。本展では、県内を中心に肥前中世にかかる絵画・彫刻・書・工芸品など約130点を展示いたします。

観覧料 大人500円(400円) 大・高生250円(150円)

中・小生150円(100円)()内は団体20名以上

博物館・美術館報 第67号
発行年月日 昭和59年12月1日
編集 大塚正道
発行 佐賀市城内1丁目15番23号
佐賀県立博物館
佐賀県立美術館
印刷 同印 刷